



第58号

発行所

大阪市史跡 龍興寺遺跡 雲竜山九島院

〒550-0022 大阪市西区本田3丁目4番18号
TEL 06(6583)2725 FAX 06(6583)0908

発行者

第二十五世住職 奥田啓知(智證)

平成二十一年三月二十日

阪神なんば線開通

緒形拳さん死去

死ぬまでしつかり生きよ

映画「楳山節考」「鬼畜」など数多くの映画に出演、日本を代表する個性派俳優緒形拳（本名・明伸「あきのぶ」）さんが十月五日午後十一時五十三分肝臓ガンのため、妻、子供、孫と親友の津川雅彦さんらにみとられ亡くなりました。

人付き合いが苦手であった緒形拳さんの唯一の親友であり、俳優仲間津川雅彦さんは、ブログでその最後を次のように報告しています。

「五日午後になつて容体が急変し危篤の知らせを受け、病院に駆けつけたところ、ベッドの上のガタ（二人の仲での愛称）は嬉しそうに手を出してくれ、いろいろな話をして、話の最後に『お前身体大事にしるよ！良い映画沢山創ってくれよな！治つたら、うなぎ喰いに行こな、白焼きをな』と冗談を交えて、医者に危篤を宣言されている患者とは思えない、明るい台詞を残して、その4時間後には、歌舞伎役者のように、虚空を睨み付けながら、静かに、静かに、息

を引き取った！実に安らかに、全く苦しむ様子も見せずに、名優らしい！カッコいい！立派な最後だった！俺もあんな死に方したいと、本気で思えた！臨終に間に合い、話が出来てつくづく良かったと思っている！

誠に見事な最後でした。誰しも従容として死にたいと願望を持っています。死に際を見苦しくしたくないと望んでいます。

「お釈迦さまは、生老病死を、この場合の「苦」とは、思うようにならないことを言っています。す。」「どうしようもないこと」を「どうしようもないこと」と分かることが「悟る」ことにほかならないのです。

所詮自分自身、他人にはなれないのです。緒形拳さんが見事な「死にざま」だったからとはいえ、それは『緒形拳の死に方』なのです。

脊椎カリエスのため、三十歳になる前から死ぬまでほとんど病床にあった明治の俳人、正岡子規は、ある日その病床で忽然



と気づいたそうです。

「余は今まで禅宗の所謂悟りといふ事を誤解して居た。悟りといふ事は如何なる場合にも平気で死ぬる事かと思つて居たのは間違ひで、悟りといふ事は如何なる場合にも平気で生きて居る事であった」（病牀六尺）

どんな人間も、死ぬまでは生きています。その生をしつかりと生きる事が大事なのです。しつかり死ぬことなのです。私たちが自分の死を死ぬのです。量の上で安らかに死ぬ時は、安らかに死ねばよい。無残な死に方をせねばならないときは、無残に死ねばいいのです。どうか、いそんなものはいいのです。少なくとも仏教は、いい死に方などないと教えています。緒形拳さんのご冥福をお祈りします。

